

実証ほ場(和牛放牧を活用した耕作放棄地の再生利用) 設置・運営実績報告書(平成22年度～25年度)

1. 事業実施主体

いしかわの農地活用連絡調整会(県協議会)

2. 目的

過疎化・高齢化が進行している中、棚田・谷内田による小区画・不整形田が多い地域では、耕作放棄地が増加しており、その解消が急務となっている。また、耕作放棄地の増加により、鳥獣害が拡大している。

耕作放棄地における和牛放牧は、舌草刈りによる農地の再生、景観保全が期待されるほか、有害鳥獣の農地への侵入を防ぐ効果が期待されている。しかしながら、石川県内では普及が進んでいないため、耕作放棄地再生利用緊急対策の一環として、和牛放牧により農地の再生、景観保全、鳥獣害の防止が図られることを実証展示し、和牛放牧による耕作放棄地の解消を普及拡大させる。

3. 取組み内容

実証地区: 8地区(H22～25)

実証地区は、和牛及び放牧用物品を借り受け、耕作放棄地に牛を放牧し「舌草刈り」による再生を実施する際の牛の管理を行う。

実証地区の取組者: 営農生産組合、集落等

実証地区の取組みの概要は、下表のとおり。

市町名	地区名	取組者	再生面積(ha)
津幡町	富田	富田区	0.17
	倉見	倉見区	0.96
羽咋市	滝	滝地区農地活用推進協議会	0.74
七尾市	鳥越	朱鷺棲む里山鉦打クラブ	0.44
	西谷内	西谷内営農生産組合	0.26
	上畠	上畠営農生産組合	0.71
能登町	秋吉	秋吉集落協定和牛放牧部門	0.43
珠洲市	三崎	NPO法人「能登半島おらっっちゃの里山・里海」	1.65
合計			5.36

4. 取組み状況





放牧開始



放牧中



PR看板



放牧中



七尾市中島町鳥越の耕作放棄地で19日、和牛の放牧が始まり、農地再生を目指す地元住民ら関係者が見守る中、雌牛の頭が雑草を食べた。県などは除草効果を確認しながら、再生した土地の活用を検討する。

県の耕作放棄地解消モデル事業の一環、県

耕作放棄地に牛放牧

七尾・中島町 農地再生へ

耕作放棄地に放牧された牛は七尾市中島町鳥越

び放牧となっているほ場約4千平方メートルに電気柵を巡らせ、柳田肉用牛生産組合（能登町）が管理する繁殖用黒毛和牛を放した。地元住民が9月まで電気柵や餌の管理を行い、牛に雑草を食へさせる。

中能登農林総合事務所職員らが、雑草が伸

5. 実証結果

実証した8地区において、営農生産組合、集落等が和牛放牧に取組んだ結果、約5ヘクタールの農地を再生することができた。取組者、畜産農家ともに、下記の感想のように、和牛放牧による耕作放棄地解消について、一定の効果があることを確認した。

①和牛放牧に関する取組者の感想

- ・和牛放牧の蹄耕による雑草繁茂の抑制効果が見られた。
- ・ロータリー作業を困難にしていたツル系の雑草(クズ)が無くなり、再生作業の軽減に繋がった。
- ・当初牛の世話に不安を抱えていたが、比較的手軽に取組むことができた。
- ・実施期間中は、集落全体が郷愁感に包まれた。
- ・親子のふれあい、食育に繋がった。
- ・和牛は、夏場の暑さに弱いので、日陰と水の確保が重要。
- ・景観の向上が図られた。
- ・農地の利活用について、ワークショップを重ね、ほ場整備による耕作放棄地解消の気運が一気に高まった。
- ・かつて、牛が各戸にいた思い出がよみがえり、トキがすむ里山を復活させようとの思いがより一層強くなった。
- ・イノシシ等の鳥獣害対策に有効であることがわかった。

②和牛放牧に関する畜産農家の感想

- ・飼育費の削減
- ・牛舎スペースの確保
- ・糞尿処理量の減少
- ・牛のストレスが見られず健康状態は良好であった。
- ・地域住民の関心となり、見学者が訪れ、耕作放棄地解消及び和牛放牧のPRとなった。

一方、取組みを行っていく過程で以下の課題を確認した。

- ・生き物を世話することに抵抗があり、集落全体の同意が得られにくい。
- ・取組み開始時の牧柵設置等について、ノウハウが無いので人的なサポートも含め行政等の支援が必要。
- ・放牧期間を確保し一定の面積のまとまった場所が必要であるため、適地の確保が難しい。

今後も引き続き、取組者については、鳥獣害対策等の農業に与える効果、畜産農家については、飼養管理に係る労力の軽減等の和牛放牧の効果はPRし、耕作放棄地解消に努めていきたい。

問い合わせ先:いしかわの農地活用連絡調整会事務局 076-225-7621
(公財)いしかわ農業総合支援機構 農地活用推進グループ